

## 第3章 事業計画

3-1.	事業計画の基本的な考え方	30
------	--------------	----

# 第3章 事業計画

## 3-1. 事業計画の基本的な考え方

市民ホールは、ホール設備をもつ建物をつくること自体が目的ではなく、市民の生活をより豊かにする公共サービスを支える施設として整備していくことが重要です。そのため、基本計画では、施設が備えるべき規模と用途に加え、新しい施設で実施されるべき活動事業についても基本的な指針を示し、ハード・ソフトの両面からの施設整備に努めます。

活動事業の立案にあたっては、基本構想で定められた施設のメインテーマ「親近感と愛着を持つ憩いのプラザ（公共の広場）～苫小牧市民のサードプレイス～」を踏まえ、5つの事業コンセプトと、それらに基づく10個の事業方針を定めました（具体的な事業コンセプトと事業方針は「図3-1 事業体系図（p.34）」に記載）。これらのコンセプト・方針には、実施する活動事業が複数の機能・スペースを横断し、展開することが意図されています。一つひとつの事業がコンセプト・方針のもとで一つの複合施設として明確な目標を持ち、機能・スペースにこだわることなく展開されていくことを目指します。

また、5つの事業コンセプトと10個の事業方針に基づき、各機能・スペースで実施する63の事業アイデアをまとめました（具体的な事業アイデアは資料編に記載）。市民ホールでは、これらのアイデアが適切なかたちで表現され、将来的にも柔軟に展開できる施設整備と組織運営の仕組みを整理していきます。

### 【5つの事業コンセプト】

#### (1) 育てる

市民の豊かな文化芸術活動を支え、文化が薫るまちづくりを醸成するための事業を展開していきます。文化芸術への親しみと向上心を喚起し、一流の芸術を背伸びすることなく体感する機会を提供するとともに、次世代の文化芸術の担い手をまちぐるみで応援し、全ての世代が生涯を通じて文化芸術活動に参加できる場を創出していきます。

- 事業例① 趣味で始めた活動が日の目を見る機会を提供するプログラム（育てる①）
- 事業例② 未来のスター育成プログラム（育てる⑧）

事業例①のアイデアとして、地道に活動を続ける市民に対し施設が講演会・個展・発表会などの機会を提供することで、発表の機会を得た市民の創作活動へのモチベーション<sup>注8)</sup>へとつながり、一方で文化芸術活動を縁遠いものと感じている市民が「自分にもできるかもしれない」と文化芸術への親しみを感じる事が考えられます。また、事業例②のアイデアとして、子どもを対象とした地元出身のアーティストの集中講座の開催などを通じて、小さなころから文化芸術に触れることのできる環境を地域全体で創出することが考えられます。

## (2) 集う

市民が施設を気軽に訪れ、利用者一人ひとりが思い思いの滞在をすることができる事業を展開していきます。文化芸術活動特有の驚きと感動を共有できる体験を提供する（ハレの場<sup>注9)</sup>）ことはもちろん、いつでも気軽に立ち寄りことのできる空間を整備し、目的がなくとも散策し休憩できるような憩いの場（ケの場<sup>注9)</sup>）も生み出していきます。

事業例① 大人が息抜きできる夕暮れ限定の特別喫茶席（集う<sup>①①</sup>）

事業例② 公演後の打上げを関係者と観客で共有しあうイベント（集う<sup>②②</sup>）

事業例①のアイデアとして、大人を対象に夕暮れの時間帯限定で特別喫茶席を設置することで、仕事や家事で忙しくしている市民が自宅や職場以外で気軽に立ち寄り一息つける居場所を創出することが考えられます。また、事業例②のアイデアとして、一般的には関係者のみで行われる公演後の打上げを関係者のみならず、観客も参加することができるようにすることで、驚きと感動に満ちた公演の喜びを関係者・観客に関わらず全員で共有することなどが考えられます。

注8) 物事を行う際の意欲ややる気、または動機づけ。（英語：motivation）

注9) 儀礼や祭などの非日常の出来事を「ハレ」といい、例えば、公演や発表会などはハレの場となる。対して、日常を「ケ」といい、特別に予定がなくともついでに利用するなど普段の生活の延長であるケの場としても利用されることを目指す。

### (3) 知る

市民に開かれた情報提供の場を実現するために、誰もがハードルを感じず、気軽に無理なく学ぶ喜びを感じることのできる事業を展開していきます。市民が来訪することで生まれる人の交流や情報共有を重視し、誰もが関心を持つ情報と来訪の機会を発信し、来訪を通じた偶然の出会いや新たな発見ができる場を創出していきます。

事業例① 地域に根差したソウルフードを楽しみながら伝える市民団体 (知る①)

事業例② 演劇やライブ活動の場となる体験型図書スペース (知る⑩)

事業例①のアイデアとして、地域特有のソウルフード<sup>注10)</sup>を料理教室やフェスティバルなどを通じて紹介し、苫小牧に伝わる食文化をイベントとして発信し、施設への来訪の機会を提供することが考えられます。また、事業例②のアイデアとして、公演や展覧会などに関連した本の紹介やライブなどを行う図書スペースを創出することで、図書を媒介とした偶然の出会いや新たな発見を演出することが考えられます。

### (4) 関わる

市民の誰もが分け隔てなく平等に施設づくりに参加できる機会を提供し、一人ひとりが文化芸術の担い手としてその権利と義務・責任を果たすことのできる事業を展開していきます。一人ひとりがそれぞれの主体性を発揮しながら自らの居場所を創りあげ、なおかつ楽しみながら持続できる活動を展開していくことで、市民主体の施設づくりを実践していきます。

事業例① 地域の方々や子どもたちがスタッフとして主体的に参画することのできるレストラン (関わる②)

事業例② 市民による市民のための情報発信・交換サービス (関わる⑫)

事業例①のアイデアとして、日替わりで作り手が交代するなど、市民が気負いなく主体的に活動できるレストランを設置することで、市民が主体の居場所を創出することが考えられます。また、事業例②のアイデアとして、市民が他の市民に届けたい情報を週替わりで発信していく施設独自の情報発信サービスを実施することで、市民が楽しみながら活動を持続することができると考えられます。

注 10) その地域に特有で親しまれている郷土料理。(英語：soul food)

## (5) つなぐ

市民同士の世代間交流や分野を越えた積極的な協働を促す事業を展開していきます。交流・協働の際には、顔の見える関係を構築することで共感や相互理解を深め、文化芸術の輪を広げていきます。文化芸術が有する地域社会への広い波及力を活用し、市民の誰もが分け隔てなく平等に参加し、活用できる社会的包摂<sup>注11)</sup> 拠点としての施設づくりを目指します。

事業例① 文化芸術を通じた親子関係の絆を強めるプログラム(つなぐ⑤)

事業例② 市内施設のネットワークを活かした施設利用の相談サービス(つなぐ⑨)

事業例①のアイデアとして、思春期の子どもとその親を対象とした芸術鑑賞プログラムなどを実施することで、会話する機会が少なくなる思春期の親子関係に配慮しながらも、文化芸術を通じた家族間のコミュニケーションを創出することが考えられます。また、事業②のアイデアとして、予約が重複した際にも市内にある他の公共施設を紹介するなどの代替案を提案することのできるスタッフを配備し、全ての市民が等しく文化芸術に親しむことができる機会を提供することが考えられます。

注 11) 市民の誰もが排除されず社会の一員として共に助け合っていこうとする考え方。新しい施設でも、市民一人ひとりが分け隔てなく平等に参加し、活用できるという考え方を重視している。

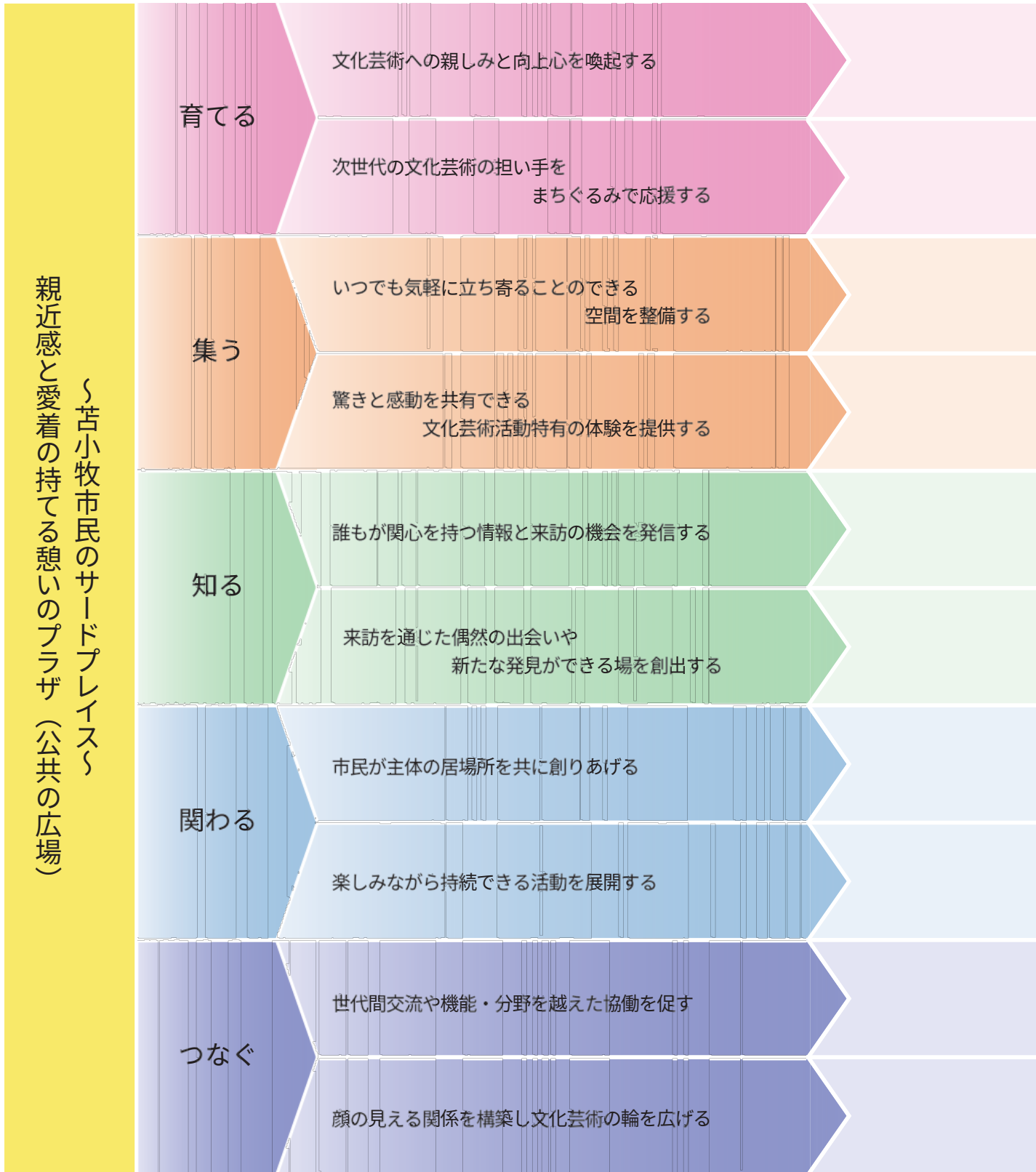


図 3-1 事業体系図

## 事業アイデア

### 活動機能

01 ソロデビューへの道

06 お茶の間フレンズ

01 レベルアップ!みんなの部室  
02 週末マルシェ de ライブ  
03 ゴーゴーナイトキャンペーン

15 おもてなしフェスタ  
16 寄合いバル実行委員会  
17 カルチャーフェスティバル  
18 紅白コミセン合戦

01 苫小牧の味を守る会

01 腕利きサポート部隊  
02 手作り食堂 in 市民プラザ  
03 チャレンジショップ in 市民プラザ  
04 共にアクション実行委員会

10 芝生ファンクラブ  
11 まちカフェ企画室

01 大人のいきいきカレッジ  
02 見習い親父バンドプロジェクト  
03 お手軽文化講座

07 なかま to ナカマ

### 鑑賞機能

02 じわじわキャンペーン  
03 苫小牧アワード  
04 響きのソムリエ体験プロジェクト

04 ふらっとコンサート  
05 どこでもアクション実行委員会  
06 まちなかスタジオ設計室  
07 CC-PON!(カルチャークーポン)

19 びっくり箱プロジェクト  
20 シアター de アフターパーティー

02 ○×デー

07 特別公開!裏方の世界

05 NO MORE 交通事故キャンペーン

04 あなたに魅せる公開リハーサル  
05 15の夜~親子の語らい

08 文化芸術コンソーシアム

### 展示機能

07 デコレーション大作戦

08 わたしの絵日記プロジェクト  
09 子どものわくわく社会見学  
10 コドモの止まり木

21 もったいないプロジェクト  
22 北の歳時記  
~アウトドア展示推進企画室~

03 教えて!子ども特派員  
04 誰でも印刷工房

08 とつげき新聞部  
09 サイン考案部  
10 図書室(ライブラリー)deライブ

06 ワクワク展示室  
07 DIY応援部

12 週刊おすすめリレー

09 施設コンシェルジュ  
10 空き部屋活用不動産

### 窓口機能

05 とまこまい文化口座

08 とまこまいキッズ基金

11 トワイライトカフェ・プレミアムシート  
12 Living Bar  
13 進め!カルチャーバスクラブ  
14 トクトク予約

05 広報とまこまい増刊号 文化編集部  
06 とまチョップ・アート&カルチャーポイント

08 いきいきディレクターズ  
09 魅せる事務室

13 ボランティアコーディネーター協会

06 施設運営アカデミー